

大学運動部のあり方

－「文武両道」のためのプログラム－

The state of a university athletic club

The Program for "Literary-and-Military-Arts both Ways"

桑野 裕文

Hirofumi Kuwano

【要 約】

運動各部員の『文武両道』を高いレベルで実現し、優れた学生アスリートを育成したいという思いで、大学教育プログラムと学修支援プログラムを示す。2つのプログラムは、各部員の人格陶冶（とうや）を目的とし、卒業後社会に出て活躍する人材となるようキャリア形成を支援していくプログラムである。一つ目の大学教育プログラムは、テキストブックの配布、オンデマンド授業、講演会、ボランティアへの参加、国際交流プログラムである。二つ目の学修支援プログラムは、学業情報の把握、取得単位が一定レベルに達していない学生へのサポート、競技成績及び学業優秀者への褒賞制度からなるプログラムである。取得単位レベルが一定レベルに達していない学生へのサポート内容には、最低基準単位を下回ると警告、さらに最低基準単位を2学期連続で下回ると、その基準を再び超えるまでは練習や公式戦への参加停止などの指導措置を考えている。その最低基準単位はおおむね登録上限単位の6割に設定する。尚本学では、進級要件や履修登録単位数の上限等履修規定に定められており、今回の大学教育プログラム及び学修支援プログラムを併用するのか、別途学年進行にするかは検討中である。

キーワード：文武両道、大学スポーツ、大学運動部、大学教育プログラム、学修支援プログラム

<はじめに>

進学校が甲子園などに出場すると、新聞紙上に「文武両道」という文字が躍る。文武両道は、かつて「学芸と武芸に秀でた人物」に対して用いられ、武芸の必要性がなくなった現代では「勉強と運動（スポーツ）に秀でた人物」に対して用いられている。この文武両道は、あくまでひとりの人物が、勉強もクラブ活動にも優れているのでなければならない。しかしながら、学習成果（進学実績）を上げている人物とクラブ活動成果（競技成績）を上げている人物が同一人物ではなく、それぞれ進学コース、スポーツコースに在籍し成果を上げている学校がある。そしてこのような学校

をメディアは文武両道を校訓・校是に掲げる学校として紹介している。これは、文武両道の偽装使用ではないだろうか。確かに、学生時代にはスポーツ漬けで勉強はあまりしなかった人物が、卒業後各界の第一人者として活躍しているケースは稀ではない。元来、日本では一つのことに集中する姿を美德として褒め称えられてきており、一芸に秀でた者を評価することに異存はない。しかし真の文武両道とは、同一人物が同時期になし得ることを意味するものである。

最近の学生たちに「文武両道」を問うと、すべてに秀でているスーパーマン・スーパーウーマンが浮かんでくるらしく、努力というより遺伝や才能なのだという答えが返ってくる。文武両道は遺

伝や才能なのだろうか。最近の脳科学やスポーツ科学の研究によれば「運動」と「勉強」は互いに密接に関係し、運動が脳神経細胞にプラスに働くことが明らかにされている。これは遺伝や才能よりむしろ努力が必要であることを示唆している。筆者は、大学運動部の指導者であると同時にスポーツ・健康関連科目を講義する立場である。そこで本学運動部員が真の文武両道を目指すべく、教育プログラム、学修支援プログラムを示す。

<目次>

- 1 大学スポーツの役割
- 2 文武両道とは
- 3 学校教育と文武両道
- 4 大学が求める「文武両道」
- 5 本学の「文武両道」プログラム

1 大学スポーツの役割

1.1 役割

大学スポーツには大きく二つの役割がある。一つは、アマチュアスポーツの受け皿である。もう一つは、ユニバーシティ・アイデンティティー(U I)を高めることである。スポーツが強ければ学生の士気が高まり、大学・卒業生も元気になる。大学への帰属意識を高めてくれるものとして大学スポーツは大きな力を持っている。

1.2 目的と活動

目的は、身体的能力の向上はいうまでもなく、競技を通じて培われる状況分析能力や対応能力の向上、戦略戦術眼の鍛錬、そして様々な人間関係を通じたコミュニケーション能力の育成である。活動は、学生の自発的自主的なものであり、昨今いわれる「社会人基礎力」や「学士力」の涵養に大きな役割を果たす正課外教育の場といえる。結

果、多くの企業が体育会出身の人材を好んで採用する傾向がある。

2 文武両道とは

2.1 文武両道の由来と意味

- ・史記¹⁾に「文事ある者は必ず武備あり」という言葉が認められる。
- ・平家物語²⁾に「文武二道に優れ」というくだりが認められる。その内容は、「源氏の大將・木曾義仲が、平家との合戦を前にして八幡神社に祈祷願書を奉じるために、配下の覚明という僧に祈祷文を書かせる。この覚明が勇猛、達筆。文武二道に優れていたと。」である。
- ・中世
ひとりの者(武家・僧兵・貴族)が、文武(学問と武芸)二道に優れている。
- ・武家社会
武士とは、武芸と学問に秀でた者。
- ・昔は「文武二道」、今は「文武両道」。

2.2 文武両道と必ずしも同じ概念とは言えないが、説いている内容が似ていると思われる類似語。

- ・「文武一徳(中江藤樹)」
文と武は込となるものではない。武なき文は真実の文ではなく、文なき武は真実の文ではない。
- ・「知行合一(陽明学)」
知識と行は一緒である。武士の文武両道は、晝に正座して書物を読み勉学をし、それが済んだら、今度は道場で竹刀を振り回して武道に励む。その両方とも優れていること。
- ・「賢才武略」
知識と策略を備えた武将。
- ・「色才兼備」
容姿と才能を備えた、主に女性に対して用いられる。
- ・「よく学び、よく遊べ」
「遊ぶとき」と「学ぶとき」を完全に区別、勉強するときは徹底して勉強し、遊ぶときは学問から解き放たれて思いっきり遊ぶ。

- ・「勉強と部活（運動部・文化部）の両立」計画力・知性・教養・良識とそれを実行しうる実践力こそが文武である。
- ・「秀才アスリート」³⁾ 教育のどの段階においても学業とスポーツの両面に真にすぐれ高い水準に到達した者。

3 学校教育と文武両道

- 3.1 校訓、校是・教育方針として表記している高校。
- ・校訓（教えを成文化した学校生活の指針）として明記している学校は、福岡県立高等学校では育徳館高等学校と東筑高等学校の2校。
 - ・校是（学校の教育上の根本精神を表す標語）と教育方針に掲げる学校は多数有。
- 3.2 文武両道の取り上げ方
- ・部活動や文化祭・体育祭の学校行事に力をいれる。
 - ・文を「学問と学習活動」、武を「運動」に限定せず広く「文化・体育・教養に関する諸活動や特別活動」とする。
 - ・入部条件に「文武両道」を明記する運動部。
 - ・勉強ができればそれ以外のものがダメでもいいという極論な考え方を抑制するために文武両道を奨励する学校。
 - ・リーダー教育の理念に合致する文武両道（首都圏1都3県公立進学校校長会談）。
 - ・社会に飛躍できる人材になるため、「学問、行事、部活」に全力で打ち込む（ラグビー全国大出場高浦和高校、他）。
 - ・選抜高校野球21世紀枠に「文武両道」高校を選出する公益財団法人日本高等学校野球連盟高野連。
 - ・健康標語の一環「人生を豊かに生きるための一つの手段」文武両道を極めてなにかを得る。

3.3 進学のための運動部活動

高等学校では1981（昭和56）年に改訂された指導要録・調査書⁴⁾において、部活動に関わる記述が奨励されるようになる。これにより、運動部

活動の競技成績を要録・調査書に記載し、それを受け入れ側の学校が評価するという「進学のための運動部活動」が制度化された。中学校の指導要録・調査書においても部活動に関わる記述が奨励されており、大学受験、高校受験に浸透している。これにより、競技成績を上げれば進学できる可能性が高まり、運動部活動は進路指導の一環として是認された。これは高校の運動部活動が大学進学の手段となり得ることを意味し、大学入試におけるスポーツ推薦入試の復活につながった。

4 大学が求める「文武両道」

4.1 勝利至上主義・競技偏重からの脱却

①日本の大学

<早稲田大学>

早稲田大学は、2014（平成26）年4月から約2400人の体育会学

生を対象に文武両道を支援する「早稲田アスリートプログラム（WAP）」を開始した。体育会の学生の留年生を減らし、文武両道を目指すのが目的。WAPとは、一定の単位取得を下回る学生に活動や対外試合出場を禁止したり、成績優秀な部を表彰したりする制度。

<立命館大学>

立命大は、年度ごとや学期ごとに一定の単位取得を義務付ける。学業面での成果がない場合は部活動を制限する。

②アメリカの大学

・米国では1970年～1980年代に大学生のスポーツ選手の暴力事件や非行が社会問題になり、各大学は競技偏重を見直して学業とのバランスを重視する方針へかじを切る。米プロフットボールNFLベンガルズのヘッドコーチも務めたホーマー・ライス氏が80年代にジョージア工科大体育局長時代に考案した、学業優先で社会奉仕なども行い人格形成を促すプログラムが成功すると、1991年には全米大学体育協会（NCAA）も同様の制度を導入する。

<アメリカのNCAA（全米大学体育協会）>

個人に対しては、1週間の練習時間を20時間以内と制限し、学業がダメなものは退部させる。またGPA（全授業の成績の平均）が基準を下回ると試合に出場できない。チームに対しては、選手の成績や卒業率がNCAAの定める最低ラインを下回ると、推薦枠を減らすなどの厳しい処分が科される。また、指導者は部員の成績が基準を下回った場合、大学の奨学基金に寄付しなければならない。

4.2 就職対策と文武両道

長引く不況により、伝統校の運動部員ならすぐに見つかった就職口が「内定が取れる学生とそうでない学生の分化が激しい」と大学関係者は漏らす。今大学では、「企業からは運動部員の学力が足りないと言われ、親からは卒業後の進路でサポートを求められる。キャリア教育に力を入れなければ生き残れない」状況である。

5 本学の「文武両道」プログラム

5.1 大学教育プログラム

- ①テキストブックの配布
- ②教室授業とオンデマンド授業⁵⁾
- ③科目「文武両道」の開設
- ④講演会
- ⑤ボランティアへの参加
- ⑥集中的に学べる（集中講義）カリキュラム

5.2 学修支援プログラム

- ①留年防止の為の6割規定
 - ・履修登録した単位数の6割に取得単位数が満たなければ、翌年度の部活動に活動制限する。
- ②授業の時に座席指定
 - ・一番前を指定席とする。居眠り防止
- ③ノートの点検
 - ・月一度のノート点検

5.3 サークル活動振興課の創設

運動から勉学に至るまで総合的に学生の面倒を見て指導をする部局として、また学生支援にとつ

ても課題解決にとっても有効な部局としてサークル振興課を創設していく。

<おわりに>

運動部員は単に運動をしていればよいという考え方は過去のものであり、文武両道を果たし社会人としての高い能力を身につける必要がある。

大学スポーツの地位の低下や相次ぐ不祥事は、学生スポーツの意味、運動部のあるべき姿を問い直す時期といえる。その中であって、もう一度大学のスポーツ、教育としてのスポーツを見直そう、大学にとってスポーツとはなんだろうかということを考えて「文武両道」のためのプログラムを作成した。そのプログラムには「スポーツは勝つだけではない。そこでは人間形成がされグローバル人材の育成がされるべきだ」ということを掲げている。本学は相撲部（平成14年創部）、陸上競技部（平成15年創部）と2つの強化指定運動部を有する。そして本年度より、吹奏楽部（平成26年創部）が加わった。スポーツと音楽の分野において3つの強化指定クラブを有することになった。この機会に、本学学生に真の「文武両道」の理解のために科目名「文武両道」（運動部員必修）の開設を提言する。また、学習場所と活動場所が近くなるような環境整備、授業時間帯と練習時間の調整を求めたい。

<註>

- 1) 中国前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書である。正史の第一に数えられる。二十史の一つ。
- 2) 平安末期から鎌倉初期にかけての源平争乱を描いた軍記物語。作者は諸説あるが、『徒然草』に記す信濃前司行長説が有力。成立年未詳。（ブルタニカ国際百科事典より）
- 3) アメリカで文武両道に相当する単語
- 4) 指導要録は10年間学校保存・部外秘。調査書は、指導要録をもとに作成、求められれば提出。
- 5) オンデマンド授業とは、インターネット動画配

信などにより教室授業の一部または全てを代替する授業方式で、3要件より成り立つ。

- ①担当教員から学生に教材や課題の提示がある。
- ②学生からの課題提出の機会、および提出課題に対する担当教員からのフィードバックがある。
- ③学生の意見交換や質問の機会が確保されている。

<参考資料・文献>

- 1) 早川書房、文武両道、日本になし、マーティ・キート、2003年4月10日
- 2) NHK出版 スポーツ解体新書 玉木正之
2003年1月25日
- 3) 大修館書店 日本的スポーツ環境 中村敏雄
1995年1月20日
- 4) 花伝社 スポーツを殺すもの 谷口源太郎
2002年10月13日
- 5) 祥伝社 大相撲大変 松田忠徳 2006年9月5日
- 6) PHP 新書 スポーツの世界は学歴社会 橘木俊詔 齋藤隆志 2012年11月29日